



# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
主にパフォーマンスアートの歴史(音楽史、演劇史、芸能史、身体表現の歴史)を通してこれらの体系を理解することでアーティストとしての自らの在り方を探ると同時に、哲学などを学びながらそれらのエッセンスを加味することによりそれぞれの美学に立脚した活動を促す。					
<b>到達目標</b>					
オリジナルパフォーマンス、オリジナルアンサンブル、セッションワークなどの様々なパフォーマンスの理論を通してそれらコンテンツの基本構造を理解し、実際の表現学習の類型を体系的に捉えることにより知識量を飛躍的に向上させます。 またプロフェッショナルへの入り口として技や演出力のレベルを上げ、実際のショービジネスの世界で通用しうるか否かのシビアな目線によって、より高度な表現方法への造詣を深め、且つ表現者としてそれらを体得していく。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	エンタテインメント作品とは歴史や人間性など人生哲学がダイレクトに投影されるという視点から様々な先人の類型を紐解きながらアーティストとしての生き様を討議などを交えて考え出していく。
【前期】 5～8回目	音楽の起源から中世・ルネッサンス、バロック、典派、ロマン、近代・現代の音楽と作曲家、また現代ポピュラーミュージックへ多大な影響を与えたアメリカンルーツミュージックの体系・系譜を学びそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 9～12回目	日本の音楽史の中でポイントとなる雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八などの演奏、発声、ステージシステムなどを体系的に理解しそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 13～16回目	身体表現の歴史では舞踏やダンスは様々なスタイルの累積により進化し、過去から現代へと融合し、新たなムーブメントが生み出される。そのルーツやスタイルの系譜を見ながらそれぞれの表現の成り立ちを推察する。
【前期】 17～19回目	演劇の起源、古代ギリシア、宗教との関わり、シェイクスピアなどの劇作家の登場、貴族、大衆文化による発展など西洋演劇史と日本の古代から中世にかけての伎楽、猿楽、田楽、能、狂言など、また近世の歌舞伎、人形浄瑠璃などの在り方を学ぶ。 ■前期試験：筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	近世の歌舞伎役者から戦前戦後のテレビ、漫才、落語、コント、ドラマ、時代劇、マジック、ラジオなど大衆文化の担い手となったコンテンツが何故、人気を博したかの推察を行う。また、芸能事務所、エージェンツなどの担った役割も解説する。
【後期】 24～27回目	デジタル技術やインターネットの普及によって、パフォーマンス側が自らのイベント情報を発信し、直接オーディエンスやユーザーと繋がり、ダイレクトにビジネスを行なうことが可能な時代において自らが自分という商品のブランドを高め、且つビジネスの知識、業界の仕組みやを知らないとセルフプロデュースを試みられないことから現代におけるプロデュース論を学習する。
【後期】 28～31回目	コンサートの企画・立案から運営まで、またステージにおける音響、照明、テック、ローディー、舞台監督など技術系スタッフの動きや役割などの全般理解を行い、多角的な視点でイベント運営を見つめられるようにする。
【後期】 32～35回目	民族交流や伝播による世界各地の思想・宗教・文学・歴史・民俗・美術・音楽などの発生を知ると同時に、新たな地域文化が生まれる際のメカニズムなどを推察していく。
【後期】 36～37回目	ビジネススキルとして対人関係、主にコミュニケーション、会話、交渉、プレゼンスキル、コーチングなど、また自己管理としてスケジュール、目標、タスク管理術を理解させ、一社会人として業界で活躍できるようにこれらの有効性を学習させる。 ■後期試験：筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プロジェクトⅡ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラーズ、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「作曲ソフト(Logi Pro X)の操作、作曲と編曲の技術と知識等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
各生徒各々の抱えている制作物へのアドバイス、進行途中の補助を行い卒業に導く。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行途中に出てくる色々な課題や、現場の環境に応じた対処で、自分に合った実際の解決策やテクニックを習得する。</li> <li>・どんな環境でも自分の音楽性をしっかり作品に出せるようになる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音楽理論に基づいた、オリジナルトラックを使った知識のレクチャー①
【前期】 5～8回目	音楽理論に基づいた、オリジナルトラックを使った知識のレクチャー②
【前期】 9～12回目	楽器に関するアレンジのレクチャー。
【前期】 13～16回目	各々の制作段階で浮かんだ問題をみんなで共有。
【前期】 17～19回目	共有した問題についての解決策を実演&スキルとしての定着① ■前期試験: 楽曲の制作により「意欲/ 曲のアイデア/ 楽曲の完成度」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	共有した問題についての解決策を実演&スキルとしての定着②
【後期】 24～27回目	失敗や、学んだことを生かして、再度各々の曲・トラックに修正や改良を加えていく。
【後期】 28～31回目	失敗や、学んだことを生かして、再度各々の曲・トラックに修正や改良を加えていく。
【後期】 32～35回目	曲やトラックに対して第三の視点での改良を加えるために、生徒みんなでディスカッション。
【後期】 36～37回目	曲の最終調整&発表。 ■後期試験: 楽曲の制作により「意欲/ 曲のアイデア/ 楽曲の完成度」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「意欲/ 曲のアイデア/ 楽曲の完成度」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	実際に自分のトラックや曲に対して起こる問題や理想に対して、的確な解決法やスキルを学ぶことでさらに楽曲のクオリティを上げていきましょう。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングライティングⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作曲技法Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	高校卒業後ソルフェ音楽専門学院に入学し同時に活動していたメタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
オリジナルの曲を作る過程で出てくる問題や、必要な知識・技術を講師と一緒に考え、解決できるスキルと経験をつんでいく。前期と後期に分けて最低2曲制作。原曲を作るうえで必要な理論を学びながら、オリジナルを作曲していきます。様々なコード進行や効果的な展開を自分の楽曲に反映させていくことで、プロの作曲テクニックに迫ります。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら曲を作ることで、自分にとってよりリアルな問題を具体化することができる。</li> <li>・学科スタート時点では分からなかった、自分にとって必要なスキルや経験を理解する。そして、それを課題として可能な限りクリアしていくことで、現実的なスキルの習得をする。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半は作曲開始。講師とのQ&A形式で進む。
【前期】 5～8回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半は作曲。講師とのQ&A形式で進む。
【前期】 9～12回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半現段階での制作物の中間発表。クラスメイトの意見をヒアリング。
【前期】 13～16回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半は作曲。講師とのQ&A形式で進む。
【前期】 17～19回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半は最終週の発表に向けて調整。19週目にクラス内で楽曲を発表。 ■前期試験:楽曲の制作により「楽曲のクオリティ / 制作の速度」を確認する。
【後期】 20～23回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半は作曲開始。講師とのQ&A形式で進む。
【後期】 24～27回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半は作曲。講師とのQ&A形式で進む。
【後期】 28～31回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半現段階での制作物の中間発表。クラスメイトの意見をヒアリング。
【後期】 32～35回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半は作曲。講師とのQ&A形式で進む。
【後期】 36～37回目	90分の前半は教科書を使つての作曲についての講義。後半は最終週の発表に向けて調整。37週目にクラス内で楽曲を発表。 ■後期試験:楽曲の制作により「楽曲のクオリティ / 制作の速度」を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲のクオリティ / 制作の速度」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	実際に曲を作ってみてわかる、自分の問題点。それを講師が第三の目となって一緒に解決していくので、自分の個性にとってダイレクトなスキルや、個人的に伸び悩んでいるポイントなどを把握して、よりオリジナリティのあるアーティスト目指して頑張りましょう。
備考	使用教科書「作編曲技法&楽曲制作」

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アレンジ&アナライズⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	高校卒業後ソルフェ音楽専門学院に入学し同時に活動していたメタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
オリジナルの曲を作る過程で出てくる問題や、必要な知識・技術を講師と一緒に考え、解決できるスキルと経験をつんでいく。前期と後期に分けて最低2曲制作。原曲を作るうえで必要な理論を学びながら、オリジナルを作曲していきます。様々なコード進行や効果的な展開を自分の楽曲に反映させていくことで、プロの作曲テクニックに迫ります。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら曲を作ることで、自分にとってよりリアルな問題を具体化することができる。</li> <li>・学科スタート時点では分からなかった、自分にとって必要なスキルや経験を理解する。そして、それを課題として可能な限りクリアしていくことで、現実的なスキルの習得をする。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半は作曲開始。講師とのQ&A形式で進む。
【前期】 5～8回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半は作曲。講師とのQ&A形式で進む。
【前期】 9～12回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半現段階での制作物の中間発表。クラスメイトの意見をヒアリング。
【前期】 13～16回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半は作曲。講師とのQ&A形式で進む。
【前期】 17～19回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半は最終週の発表に向けて調整。19週目にクラス内で楽曲を発表。 ■前期試験: 楽曲の制作により「楽曲のクオリティ / 制作の速度」を確認する。
【後期】 20～23回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半は作曲開始。講師とのQ&A形式で進む。
【後期】 24～27回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半は作曲。講師とのQ&A形式で進む。
【後期】 28～31回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半現段階での制作物の中間発表。クラスメイトの意見をヒアリング。
【後期】 32～35回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半は作曲。講師とのQ&A形式で進む。
【後期】 36～37回目	90分の前半は教科書を使っての作曲についての講義。後半は最終週の発表に向けて調整。37週目にクラス内で楽曲を発表。 ■後期試験: 楽曲の制作により「楽曲のクオリティ / 制作の速度」を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲のクオリティ / 制作の速度」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	実際に曲を作ってみてわかる、自分の問題点。それを講師が第三の目となって一緒に解決していくので、自分の個性にとってダイレクトなスキルや、個人的に伸び悩んでいるポイントなどを把握して、よりオリジナリティのあるアーティスト目指して頑張りましょう。
備考	使用教科書「作編曲技法&楽曲制作」

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プロジェクトアドバイジングⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTMⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	UNIVERSAL MUSIC GROUPよりリリースした楽曲「EMMMA WHALIN / MAKE YOU MOVE」オフィシャルREMIXなどを制作。上記の経歴を活かし、職業として求められる「DAW・DTMⅡ」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
楽曲制作を通して生徒の制作物に対し様々な角度からアドバイスや補助を行っていきます。□					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な制作環境・現場で臨機応変に対処できる能力を身につける。</li> <li>・自分の音楽性の確立。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業内容・到達目標説明。 生徒が今まで制作してきた作品を聞かせてもらい問題点・改善点を確認する。
【前期】 5～8回目	自身のオリジナルトラックを使い、Tipsや曲の構成などをレクチャー。
【前期】 9～12回目	楽曲制作① 1年生の時に学んだ事を生かし1分程度のポップスを制作。 ミキシング・マスタリング技術の確認を行う。
【前期】 13～16回目	楽曲制作①で制作した作品に対するアドバイス。 コード進行や曲の構成をレクチャー。
【前期】 17～19回目	アレンジについてレクチャー。 生徒の制作物を使用しアレンジについて考える。
【後期】 20～23回目	ミキシング・マスタリングについてレクチャー。 楽曲制作②フルコーラスの楽曲制作(ミッドテンポ ポップス)
【後期】 24～27回目	楽曲制作②で制作した作品へのアドバイス。 EQ・コンプについて理解を深める。
【後期】 28～31回目	楽曲制作③ フルコーラスで生徒の好きなジャンルの楽曲。
【後期】 32～35回目	楽曲制作③で制作した作品についてアドバイス。 第三者の視点での改良を加える為、みんなでディスカッション。
【後期】 36～37回目	楽曲制作①で作った作品と楽曲制作③で作った作品を聴き比べ1年間のおさらい。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「意欲/ 曲のアイデア/ 楽曲の完成度」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の楽曲へ抱える問題点や解決方法を授業を通して発見し楽曲のクオリティを上げていきましょう。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	デジタルオーディオワークステーションⅡ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	作品制作Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	高校卒業後ソルフェ音楽専門学院に入学し同時に活動していたメタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
作曲、作詞、編曲の方法や、PC(Mac)の操作における理解と習得。音源制作を行う手順を一から理解できるようにする。DAWを使用してMIDI入力することにより、PC操作に慣れ親しみ、音符の持つ意味と実際に鳴る音色、楽曲のイメージを養う。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲知識の習得と実践。・編曲知識の習得と実践。・DTM知識の習得と実践。</li> <li>・主に1年次に行った内容を実践、そして知識としてしっかり定着させる。・クオリティーとスピードを両立させる力をつける。</li> <li>・全ての工程において、リファレンス曲がその楽曲たる所以を頭に置き、可能な限り思考を巡らしながら楽曲制作を行う。</li> <li>・感性だけでなく、「論理的にオリジナル曲の制作すること」を実行可能にする。</li> <li>・ゼロから楽曲を生み出す技術と知識をつけ、ひとりてイメージ通りのオリジナル楽曲を完成させる力をつける。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	オリジナル楽曲の制作。(まずは自由に制作を行う)
【前期】 9～16回目	リファレンス曲を設定したのち、リファレンス曲の分析を可能な限り行う(リファレンス楽曲の楽曲たる所以の分析)。
【前期】 17～24回目	リファレンス曲を念頭に置きながら、楽曲制作を行う。
【前期】 25～32回目	制作した自身の楽曲の内容を分析する。
【前期】 33～37回目	今までの内容を踏まえ、改めて既存曲の分析を行う(リファレンス楽曲の楽曲たる所以の分析)。 ■前期試験:オリジナル楽曲の制作により「制作楽曲のクオリティ / 制作意欲」の到達度を確認する。
【後期】 38～45回目	分析した楽曲の中から、改めてリファレンス曲を設定し、オリジナル曲の制作を行う。
【後期】 46～53回目	制作した楽曲のフィードバック。アドバイス後、分析を行う。
【後期】 54～61回目	DTM知識の習得。プラグインやTIPSなどの解説。
【後期】 62～69回目	リファレンス曲の設定・分析を行い、オリジナル曲の制作開始。
【後期】 70～74回目	制作した楽曲のフィードバック。アドバイス後、分析を行う。 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「制作楽曲のクオリティ / 制作意欲」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「制作楽曲のクオリティ / 制作意欲」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	とにかく作曲の数をこなすこと(アウトプット)も大切ですが、インプットも大切です。特にリファレンス曲がリファレンス曲たる所以を、しっかり分析することも行ってください。自身の楽曲を客観的に捉えられるようになること。主観も大切ですが、特に客観性の強化、世の中の感性と自身の感性との誤差を客観的に捉えられようことが商業作家として重要な事項の一つになります。そのあたりを念頭にオリジナル曲作り励んでください。
備考	